

ベトナム政府、カツオ輸出に規制対応急ぐ

2025 年 4 月 9 日 作成

カテゴリー ベトナム経済 経済動向

ベトナム政府、カツオ輸出に規制対応急ぐ

ベトナム政府の統計によると、2025 年 2 月のベトナム国内におけるカツオ・マグロ類の輸出額は約 7,300 万ドルに達し、前年同月比で 41% 増加し、過去 5 年間の同月としては最高となった。2025 年初めの 2 か月間での累計輸出額は 1 億 3,900 万ドルを超え、6% の増加を記録している。

ベトナム企業による生鮮・冷凍・乾燥カツオ・マグロ製品の輸出は前年同期比 23% の伸びを示している一方で、加工・缶詰製品の輸出は 9% 減少した。輸出先市場では、イタリア、イスラエル、メキシコを除く主要国すべてで輸出が増加し、特にアメリカ、EU、カナダ、日本向けが顕著に伸びている。

現在、ベトナム国内のカツオ・マグロ供給チェーンはタイからシフトしつつあり、ベトナムは世界第 5 位のカツオ・マグロ輸出国となっている。2024 年の輸出総額は 9 億 8,900 万ドルで、前年比 17% 増であった。

しかしながら、2025 年はベトナム企業にとって試練の年になると予想されている。EU やアメリカからの規制強化がその主因であり、特に IUU (違法・無報告・無規制) 漁業への対策として、ベトナム政府が導入したカツオの最小サイズ規制は、漁業者や加工業者にとって大きな障壁となっている。

さらに、アメリカの MMPA (海洋哺乳類保護法) や SIMP (水産物輸入監視プログラム) の影響により、輸出コストや手続きの負担が増し、ベトナム企業の国際競争力を損なうリスクが高まっている。アメリカ当局はベトナムの漁業管理体制が同等ではないと判断し、2026 年以降の輸入制限の可能性を示唆している。

この状況に対処するため、ベトナム政府や関連機関は法整備や監視体制の強化、漁業者への国際基準の指導・支援を急ぐ必要がある。FTA の活用も含め、市場多様化と国際基準への適合がカギとなる。

以上